2023 年（令和 5 年）1 月 1 日
くげぬま探求クラブ

会報　くぐひ

第 112 号（正月号）

◇　くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる　◇

新年を迎えて

世話人代表　大木 信一

くげぬま探求クラブの皆さん、新春をお慶び申し上げます。

皆さんが健康で好奇心を存分に発揮できる年になることを願っています。

2020 年初春からの 3 年間は、考えもしなかった新型コロナ感染症により世界はパニックに陥りました。対応も各国で異なり、いずれの対応も功罪があって、正解がどこにあるのか未だに解りません。個人レベルでもこの感染症に対する向き合い方はさまざまで、最適解はないのでしょう。いずれにしても、3 年間で知りえたこのウイルスへの対処法を実践しつつ、本年は社会生活を軌道に乗せていきたいものです。幸い、2022 年の秋以降は沈静化の兆しが見え、10 月には 3 年ぶりの鵠沼地区公民館まつりや湘南海岸公園まつりを無事開催でき、大勢の地域の皆さんや子どもたちと楽しく盛り上げることが出来ました。また 12 月には当クラブの忘年会も久しぶりに藤が谷市民の家で開催しました。

今年の干支は癸（みずのと）卯（うさぎ）年です。癸というのは、陰陽五行説で水の陰にあたります。「みずのと」は水の弟という意味で、水の勢いを弱めるということだそうです。兎は跳ねる特徴があることから、景気は回復し跳ね上がると株式市場では縁起の良い年と考えられているようです。また、兎の穏やかで温厚な性質や跳躍する姿から「家内安全」や「飛躍」、「向上」を象徴する年とされています。

新年にあたって、干支のイメージの通り「斯くありたい！」と期待しています。

今年、くげぬま探求クラブは創立 30 周年を迎えます。

昨年以来、皆さんからの提案を基にして、30 周年記念行事委員会が中心となって、実施する記念行事とスケジュールを策定しました。その活動は、くげぬま探求クラブがこの 30 年にわたって積み上げてきた、「地域の人と風景を愛し、地域活動によってより良い地域づくりに貢献する」という基本に則っています。

行事が滞りなく開催でき、皆さんの積極的な参加により、ともに協力してやり遂げ、楽しく語り合える一年にしていきたいと考えています。

忘年会（於：鵠沼藤が谷市民の家、2022 年 12 月 19 日）

3 年ぶりの公民館まつりを終えて

新型コロナ感染症の世界的流行で 2 年間開催できなかった公民館まつりは、感染対策を講じる中で、10 月 8 日（土）のプレイベント古本市から 10 月 15（土）～16（日）のまつり本番まで無事に開催することができた。

くげぬま探求クラブとしては、以前には恒例となっていた焼いも販売が、販売食の持ち帰り禁止ということで参加できなかったが、古本市、鵠っ子囲碁・将棋、手作りおもちゃ、災害研究展示、ヤングブラザーズ公演の 5 つのイベントで参加した。

コロナ下での 3 年ぶり開催で盛り上がりが危惧されたが、いずれの日も好天で多くの地域住民の方々に来ていただき、大盛況であった。特に大勢の子どもたちが公民館に来て、まつりのイベントに喜んで参加している光景に、こちらの気持ちも明るくなった。

（大木 信一）

古本市

10 月 8 日、3 年ぶりの古本市（公民館まつりプレイベント）が終わった。多くの探求メンバーが古本の受付・整理・販売作業にボランティアとして参加したが、その結果は、鵠沼地区の市民の方々からおよそ 1.5 万冊の古本が集まり、古本市の当日の販売額も 13～14 万円に達したとのことである。今回は開催場所を今までの談話室からホールへの変更、来館者へ感染予防の手袋の配布、売り場出入口の分離、会計場所までの動線の明確化など、公民館側の種々のコロナ対策の下で開催されたが、特にホールへの場所の変更は準備する側、購入者側ともに好評だった。古本市開催日がまつり本番の1週間前であり、開催期間も 1 日であることから、いつもより販売数・額ともに減ることが予想されたが、公民館側のアナウンスがうまくいったのか、1 日の開催としては例年とほぼ同じような数字だったと思う。

部会などでしか会話をする機会がないメンバー同士が、古本市という長期間、長時間の共同作業に参加することによって親しくなるという副次的効果もあって、古本市は当初から探求クラブメンバー全員参加型の活動とされている。今回はいろいろな理由で参加できなかったメンバーも次回はぜひ参加されることをお勧めする。

（嶋村 堯敏）

鵠っ子囲碁・将棋ルーム －縁台風情－

3 年ぶりの開催。会場の設営をするにあたり、記憶と資料を振り返って準備した。資料の一つに「インフルエンザが流行っています。対局前後に備付けの消毒液を使用」、との注意の張り紙がファイルから出てきた。“さて、何年だっけ”と記憶が全く失せたが、新型コロナの感染が終息しきれない現在と重ね合わせて改めてその折々の世情を垣間見る思いだ。インフルエンザの文言に新型コロナの文字を貼って注意喚起に使用した。

お客さんの出足は、まつり一日目の午前中は少々寂しかったが、積極的な声掛けも功を奏してか、また席についている女の子の数が思いの外多く、結果的にはそこそこの賑わいを呈した。今年は、幼稚園年中さんから小学1，2年生と、まつりの中断前に比べると子供の低齢化が如実に現れている。この傾向は毎月の例会でも見られ、高学年になると何かと多忙で余裕がなくなる最近の世相を表しているとの印象を覚えた。

（河村 英二）

手作りおもちゃ

今年の手作りおもちゃには輪ゴム鉄砲（野村）、CD コマ（塙）、紙トンボ（塩川）の 3 種類が参加。輪ゴム鉄砲を除いては初の出し物であった。手作りおもちゃはこのコロナ禍で、2 年のブランクがあり販売予測数量が見通せない中、3 品目とも 100 セットずつ用意することにした。

ふたを開けてみると 3 品目とも子どもたちが並んで待ち状態になり、なんと初日にほぼ完売となった。そこで終了後各品目の担当者が追加準備をしたり、販売中に部品を製作したりすることにより、2 日目もまつり終了まで子どもたちへの相手が十分出来た。

具体的には、輪ゴム鉄砲については長谷川さんから手持ち材料の提供があり、2 日目には子どもたちの個々の実力をみながら、「任せたり、手伝ったり、作ってやったり」と柔軟に対応した。CD コマについては初日終了後に塙さんが部品の追加調達に走り、夜更かしして翌日用の準備作業を行い間に合わせることができた。また紙トンボについては手持ち在庫が十分あったため容易に追加できた。

今回は従来より広い会場が使えたこともあり、子どもたちを同時に多く受け入れることができた。お試しコーナーで、出来上がったおもちゃを、飛ばしたり、回したり、的当てしたり、大喜びで遊ぶ子どもたちをみて、スタッフ一同、大いに報われたと思う。

（塩川 昌男）

災害展示

久し振りの公民館まつりで何を展示するか協議し、災害時のトイレ対策方法の周知は継続とし、今回は更に一日の排泄量の重さを模擬の袋で実感してもらうことにした。

前回と比べパネル枚数は 2 枚から 4 枚と増えたので、水・食料品の循環備蓄であるローリングストックと気象関連の展示を増やした。ローリングストックでは 1 週間の飲料水の量が 2ℓボトル6本入 2 箱にもなることを見てもらい、気象については台風について楽しく学んでもらおうとクイズ形式とした。

展示図を新規に作成し、倉庫保管のトイレ 2 台を設置、本番を迎えた。災害展示前の通路には射的に並ぶ子どもたちの列ができ、射的を終わった子どもに声掛けして、景品の力もあってか用意した景品は全て子どもたちと親に渡すことが出来て気象博士の卵の誕生日となった。トイレ展示はパネル図に見入った方へ声掛けすると熱心に聞いて頂き、模擬袋の重さを実感して頂いた。準備から説明迄、協力頂いた皆さんに感謝！！　（柳田　敏雄）

ヤングブラザーズ

コロナ禍で 3 年ぶりの今回のステージ。歌い手が減ったので、初の 7 人ずつ 2 列で三部合唱。テーマは「歌で巡る世界の旅」《①自由の歌=ドイツ ②大海啊、故郷=中国 ③ラ・メール=フランス ④アムール河の波 =シベリア ⑤高原列車は行く=日本 ⑥今日のひととき（エンディング曲）》。

従前より持ち時間 5 分減、マスク使用などの制約の中、コロナ空白の中で二つも歳をとったのに、指揮者のリードでみんな溌剌と声が出た。ただ 2 曲目『大海‥ 』は中国語での歌唱のため、確認のためつい譜面を見るので顔が下がり、声がくぐもってしまい、周辺ではイマイチの評だったのは残念。でも他の曲は曲想を生かした歌唱が出来て、概ね支持を得た（と自賛）。特に『高原列車』のアンコールでは、みなさんの自然発生的な溌剌とした手拍子に会場が包まれ、3 年ぶりに見る懐かしい顔、顔‥をステージ上で確認しながら、楽しく温かい、まつり公演らしいエンディングを迎えられた。　（池田　修）

古本市

鵠っ子囲碁・将棋

手作りおもちゃ

災害展示

ヤングブラザーズ

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の大木」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/ 、
左の QR コードまたは「くげぬま探求」、「鵠沼探求」で検索してください。

私こういうものです　新入会員の自己紹介です。会員数は 46 名になりました

浦山 由巳（よしみ）さん

1951 年 4 月生まれで団塊世代から少し外れた世代と思っています。世の中の変化にさらされてきた世代です（学校群、大学紛争の終盤、石油ショック等）。入社後、東京郊外から横浜地区まで通っていましたが遠いので鵠沼地区に引っ越してきて 45 年近くになります。昨年まで初めての自治会役員（会計）を経験し多くの組員の支えがあり地域が成り立っていることを実感しました。これからは少しだけお手伝いできることをやっていこうと思い会員になりました。

物つくりが趣味でDIYが好きです。デッキやカーポート等、木工関係がちょっとだけ得意かもしれません。道具から入るタイプで家内に内緒で買い集めた道具を、置いておくだけでなく使いこなしていこうと思っています。運動が好きですが得意というほどではなく低山歩きや街道歩きをするために歩ける体つくりを始めているところです。

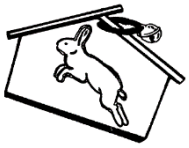
どうぞよろしくお願いいたします。

門田（かどた） 庄之助さん

1946 年1月、香川県小豆島生まれ。3 歳から茅ヶ崎在住 25 年。結婚後はいろいろ巡り、直近は溝の口に 20 年、令和になって高校時代の友人が多い藤沢地区に来ました。趣味は、高校時代からラグビー、今は母校の試合の追っかけをしています。かつてボウリング HS203。ゴルフ BG75、HDC15。裾野 CC 開場記念杯の初代チャンピオンでしたが今はすべて引退。これらはすべてまぐれで実は才能もなく今は昔、見る影もありません。ゴルフセットは 500 円で大型ごみに出しました。近年ボケ防止で始めた剣玉は一級認定を目指して特訓中が最近は腕前が停滞どころか難技「燈台」の手前で下り坂。さらに段位を取るなんて全く考えられません。海辺に来てからは知的で哲学的趣味「チェアリング」と「ロック・バランシング」を知りました。探求クラブの「反省会」でこんな私をかまってくださるとうれしいです。酒と冗談は大好きで博打と不良は大嫌いです。よろしくお願いいたします。

２０２３年　年男登場

年頭に当たり、今年の年男の抱負を投稿していただきました。兎年生まれは 4 人です。



年男もここまで来ると・・・

塙 泉

今まで「年男」など、考えたこともありませんでしたが、12 年毎に巡って来るとなると、今回で 7 回目ということになります。

現在まで大きな病気をすることも無く、ほぼ健康体で過ごして来ましたが、先般の公民館まつりでは、体の老化を痛切に思い知らされました。

私は、「手作りおもちゃ」のうち、CDコマを担当したのですが好評でして、二日分を初日に売り切ってしまいました。翌日は閉店という訳には行かず、「ここは踏ん張りどころ」と自分に言い聞かせて、市内のお店を駆け巡って素材を集め、徹夜で翌日分の準備を終えました。

まつり当日は、コマを作る子供さんの間に入り、作り方指導をしていましたが、昼頃になったら、今まで経験したことのない腰痛が始まり、終了時は、その場に「ヘタリ込む」と言うような状況でした。やっと家に帰って腰を伸ばし、長い時間風呂に浸かっているうちにやや回復し、数日後は、ほぼ全快したのですが、つくづく「寄る年波には勝てない」ことを思い知らされました。

この一件を契機に、「気持ちは未だ若くても、体がもうムリをするなと警鐘を鳴らしてくれたのだ」と考えるようにしています。あれぇ これ「年男」と関係ない？

健康のみなもとは、日々の散歩

山田 聰

7 回目の年男をむかえて新しい年を歩きだしました。さて、あっというまの退職後の 20 数年を振り返ってみますと、散歩の楽しさが第一に浮かんでまいります。

境川沿いの片瀬海岸に住んでおりますので、往きは毎朝朝日に映える川面をながめ、川沿いを鵠沼に向かって歩きます。江ノ電の鉄橋をくぐり、更に川面を楽しそうに泳ぐかもめを眺めながら、小田急片瀬江ノ島駅を目指すコースをほぼ毎日楽しんでおります。

距離は 5 kmぐらいでしょうか、鵠沼の松林を楽しみ、天気の良い日は富士山を眺め、私の好きなレトロ調江ノ電と出会えるとても楽しいコースです。この散歩が今までの健康の源かと思います。これからもウォーキングに励み、くげぬま探求クラブの会員の皆様がたと楽しく語り合い、英気を養って健康を維持していきたいと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

私・年男です

萩原 興成

年男という言葉は忘れていました。

そもそも、干支の感覚がほとんどないのは 14～15 年前に年賀状をやめたことによると思います。やめた理由はいくつかありますが、1 年を通じ日常生活の中で干支を感じることはありません。

ネットで調べるとウサギ年の意味は「家内安全、飛躍」、特徴は「性格は優しく、細やか。周りの状況や変化をよく見ている。」だそうで、少しだけ当たっているように感じますが所詮ネガティブなことは書かないものです。ウサギといえば「プレイボーイ」のロゴを思い出しますが、皆様ご存じ成人向けのセクシーが売りの雑誌で、当然男性なら見たことがあるでしょう。ウサギは繁殖力旺盛なので、雑誌のイメージになったようです。

… 今年は何か飛躍することを考えてみよー …

地域活動部会紹介

「企業研究部会」と「災害研究部会」合同開催

柳田 敏雄

田中章企業研究部会長から 2022 年 10 月の部会は災害研究部会と合同で開催してはと提案を受け、久しぶりの防災見学に即刻同意させて頂き「本所防災館」の防災体験見学は実現した。

公民館まつり準備真っ盛りの 10 月 10 日に 8 名（内ゲスト 1 名）で隅田川と荒川に挟まれたゼロメートル地帯にある「本所防災館」の体験コースを訪れた。

見学後の反省会もまた久しぶりの楽しい体験となった。

本所防災館は東京都消防庁本所消防署に隣接する建物である。都内の防災体験施設 3 か所（他に立川、池袋）の一つで 1F～4F の見学コースがあり、今回は 3F 暴風雨体験コーナー、川の手地域体感テーブル、4F 防災シアターを回った。

・暴風雨体験コーナーでは、頭から足まで完全防水服を着用し、雨量 50mm/h、風速 30m/s の暴風雨を体験した。風速もさることながら、雨量が滝のような感じで流れ落ちてきて、この中を避難するのは危険で無理と実感できた。地震の発生は予測できないが、暴風雨は事前に予測が可能であり、行政からの避難指示発令時にどのように避難するか、事前に決めておき行動すれば助かることを改めて理解した。

・川の手地域体感テーブルでは、シミュレーション画像で荒川の上流氾濫時に濁流が地下鉄の入口から入って地下鉄線路内を低地に向かって流れる説明があり、まるで下水道のようだが、下水道は大規模処理施設などを通して海に流れる出口があるが、地下鉄に入った水の出口は無いことに気付かされた。

暴風雨時の早めの避難は人命が助かるので、適確な判断と避難への躊躇なく行動を開始することが大事であること、地下鉄への避難は雨水の流入を考えると最善策とは言えないことを体験できた一日だった。

親睦研鑽部会紹介

なつかしの名盤愛好会再開

奥村 誠

まだコロナ感染の不安があるものの 10 月から 2 年半振りに定例部会を再開しました。プレイヤー等の再生機器は長い間、カフェ香房さんに預かっていただきましたが、流石にホコリまみれになっていた為、清掃から始まりました。休会時間の長さを感じました。この間に元部会長の佐野さんと、この会を盛り上げて頂いた磯川さんが他界され、話題はどうしてもお二人の思い出話になってしまいました。

11 月の例会には佐野さん、磯川さんの奥様方もご挨拶にという事で冒頭だけでしたが参加され、御主人様のこの愛好会への思い入れなども披露頂きました。

またゲストとして参加された黒澤さんが、お二人が好きだったという曲を持ってきて頂き鑑賞しました。佐野さんはクラシックの管弦楽曲を、そして磯川さんはジャズのビックバンドの曲がお好きでした。

本愛好会は二人もメンバーが減り、さびしくなりました。クラブ員皆様の振っての参加をお待ちしています。

新旧部会長交代

鵠沼松が岡公園愛護会

新部会長　萩原 興成

鵠沼松が岡公園愛護会を甘利紘さんより引き継いだ萩原です。

地域活動部会の上位に記載されているのは、それだけ歴史のある部会だと思うとやや責任を感じています。前任の甘利さんはアジサイや草花にも造詣が深い方で、細部に注意が行き届いていたように思います。

私はそのような知識もなく、公園の掃除をしながら皆さんとの雑談や草木を通じて季節の移り変わりを楽しんでいただけなので、新部会長として期待されることは何もないと思うと、少し気が楽になります。

鵠沼松が岡公園は、松（黒松・赤松　等々）が多くそれらが主役で草花類は脇役の位置づけとなっていますが、アジサイや草花の手入れにより、公園がきれいに維持されています。今後も近隣にお住まいの方たちが気持ちよく利用できるよう、皆さんとともに活動していきたいと思います。

近代史を語る会

四代目田中章部会長の誕生おめでとう！

近代史を語る会事務局　鈴木 英紀

近代史を語る会は、クラブ設立から間もない平成8年12月に発足。初代部会長の斎藤洋次さん、「維新からサンフランシスコ平和条約まで」は有志自由発表方式で約8年間。二代目の岡田義男さん、自作の「幕末史」を講読する形で1年半、平成18年11月急逝後は有志輪読で継承2年余、のちに「幕末史」発刊。三代目佐藤恒雄さんは、「明治維新から大東亜戦争終結まで」の象徴的出来事をテーマに時系列的に学び直すことを提唱。自ら執筆発表し続け、富岡製糸場など歴史的施設見学やゲスト講演など含めると会合数はすでに130回を超える。

令和2年3月以降新コロナ休会を経てこの7月、磯川道夫さんの遺稿「満州建国とリットン調査団」をテキストとして、2年半ぶりに部会が開かれた。

この再開を機に、懸案であった次期部会長に田中章さんが推され、この度めでたく四代目が誕生した。持ち前のユーモアと笑いで、新たなる場の展開が期待される。

近代史を語る会部会長を拝命して

新部会長　田中 章

今回部会長を拝命することとなったが、歴史への関心と学ぶ意欲はあるものの、近代史について語るには知見不足の誹りを免れない。しかし、参加くださる方々のお力をお借りしつつ共に学習していきたいと思う。

「近代史を語る会」は、これまでは基本的に部会員またはゲストの一人が講師となってテーマ毎に準備した原稿コピーを参加者に配布、それに解説を加え皆で意見交換を行うという形式であったが、今後は次のような運営形式の変更を予定している。

1）一部のメンバーに限られてきた講師役を、今後は全員とし、交代で各自興味のあるテーマについて発表。その場合、事前に原稿またはレジュメ的なものを準備してくるかどうかは各自の判断に委ねる。近代史に関するビデオの上映も可。
2）年に一回程度、課外学習として近代史に関わる歴史的建造物、遺跡等の見学の実施。
3）特別講師を招いての講演会の開催。

以上、部会員の意見を聞きながら進めていきたい。

～例会・各部会活動報告～

９月　September

○例会３日(土)33名。10/12月会費徴収決定。OB佐野さんご逝去。公民館まつり幹事★古本：嶋村、岸★囲碁将棋：河村、鶴田★手作りおもちゃ：野村、大木★災害展示：柳田、森(正)　景品予算１万円を承認★ヤングブラ：池田。湘南海岸公園まつり参加決定。
○世話人会８月31日５名 例会、公民館まつり準備。
○アーカイブ委員会17日(土)８名◆塩川画像up◆アーカイブ公開方法議論◆操作マニュアル作成
○くぐひ制作部 14日(水) ９名 くぐひ111号(令和４年秋号)の第三回編集会議、原稿の推敲完了。
○30周年記念行事委員会　22日＆28日、各８名。10月例会での行事提案を討議。公民館、提案者と打合せ。
○鵠沼松が岡公園愛護会４日15名、18日４名。部会長交代、甘利さんより萩原さんへ。
○藤が谷公園愛護会 11日11名(3)。清掃。
○ヤングハーツ ７日７名 練習◆23日、７名、公民館ホールでのグリーンコンサートに参加。
○おもちゃの病院　11日10名(2)　来院33名、25日10名(1) 来院31名、両日とも好天で来訪多く大忙し。
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 18日 ８名(2) 子供７名。
○災害研究部会 ２日14名(3)、洞爺丸台風等。
○極楽部会21日 12名 老いと記憶を学習。
○健康を探求する会 22日 ７名(1) 腰痛借金の原因。
○農園部会 ４日７名、15日４名、23日４名。
○談話室 21日11名 稲盛和夫氏の話題。
○ヤングブラザーズ 10日16名(5)、24日15名(5)、公民館まつりの公演に向けて練習。
○デジタル情報部会 26日17名マイナンバーカード等。
○近代史を語る会 ８日11名 (4) 満州建国とリットン調査団。
○似歌会 通信句会 10名 兼題「栗」で30句
以下の委員会・部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○メディア委員会･ＨＰ制作部○子どもと遊ぶ会
○健康部会○探訪部会○サロン会○カラオケ部会
○企業研究部会○なつかしの名盤愛好会○おひる探Ｑ会

１０月　October

○例会１日(土) 35名。公民館まつり反省会中止を了解。30周年記念行事内容の説明。
○世話人会９月29日、５名、例会資料の検討。
○30周年記念行事委員会 26日(水)７名、探求クラブ30年のあゆみ、鵠っ子スクエア2023夏、について討議。
○アーカイブ委員会　22日(土) ７名 アーカイブ公開方法、公開の原則、データ取り扱いマニュアルを討議。
○くぐひ制作部 12日 ９名　第112号(令和５年新年号)第１回編集会議。
メディア委員会及びＨＰ制作部は休会
○鵠沼松が岡公園愛護会　２日15名、清掃、甘利さん、佐藤さんも参加。
○藤が谷公園愛護会 ９日９名(1)秋冬用花植えの準備。
○ヤングハーツ ６日５名練習､10日５名亀吉訪問演奏。21日２名ラフターヨガ(鵠沼公民館)
○おもちゃの病院 ９日 ８名(2) 来院19名、23日 12名(1) 来院26名。公民館まつりの手作りおもちゃ総括。
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム　15日 16日公民館まつり参加。　探求12名(3) 子供延べ50人超。
○災害研究部会　企業研究部会で合同開催。10日８名(1)。本所都民防災教育センター訪問。
○極楽部会 19日 11名。塩川さんの「私の健康法」
○健康を探求する会 27日 ７名(1)、痺れについて。
○健康部会 28日11名(2) 遠藤笹窪谷公園。
○探訪部会：雨で中止
○農園部会２日５名、追肥等各種作業。
○談話室 19日 11名 公民館まつりの総括。
○近代史を語る会 20日 13名(4)、部長交替、鈴木(英)さんから田中章さんへ。太平洋戦争「黙れ」事件。
○デジタル情報部会 22日 17名 電気通信の歴史、ＵＳＢケーブル。
○ヤングブラザーズ８日16名(7)練習、12日16名(7)ステージ・リハ。15日16名(7)公民館まつり。
○なつかしの名盤愛好会　10日６名　２年半ぶりの例会。
○似歌会 通信句会 10名30句 兼題は「秋」
○子どもと遊ぶ会○サロン会 ○カラオケ部会○おひる探Ｑ会は、新型コロナ感染対策等のため休会

１１月　November

○例会５日(土) 32名。忘年会実施を承認。新会員浦山、門田両氏の入会承認。17回見本市参加を承認。
○世話人会 11月２日５名、資料の検討
○アーカイブ委員会 19日 ７名 スキャン作業継続。
○30周年記念行事委員会　23日 「鵠っ子スクエア2023夏」に参加予定の各部会長と打合せ。
○くぐひ制作部 ９日10名 第112号の２回目編集会議
○メディア委員会・HP制作部 は休会
○ゴルフコンペ ７日11名(1)鎌倉PG、優勝嶋村さん
○ボウリング大会　９日８名(1)江の島ボウリングセンター 優勝山田さん
○鵠沼松が岡公園愛護会 ６日15名、20日９名清掃
○藤が谷公園愛護会 12日 ９名(1) 13日11名(2)、花壇の花植え。清掃。
○ヤングハーツ ２日 練習９名、21日亀吉 ６名。
○おもちゃの病院13日10(1)名 来院33名、27日10名(1) 来院14名。新入会員浦山ドクター初参加。
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム　20日 子供 13名(初参加３名) 探求７名(2) 保護者２名。
○災害研究部会 ４日 13名(2)、鵠沼防災フェア等。
○極楽部会 16日 12名 塩川さんの「私の健康法」。
○健康を探求する会 24日４名 健康寿命を延ばす。
○サロン会 19日13名(2) 33か月ぶりの開催。
○健康部会 25日７名 逗子二子山、10キロの散策。
○農園部会 ６日６名、17日。作物収穫など農作業。
○談話室 16日12名 「やもを会」「断捨離」など。
○ヤングブラザーズ 12日15名(6)、25日14名(5)。公民館まつり後の新クール、新曲「SMILE」の練習
○デジタル情報部会 28日17名 ワードあれこれ等
○近代史を語る会 10日10名(2) 昭和時代の第25回
○なつかしの名盤愛好会 14日７名(1)佐野、磯川両夫人が参加。
○似歌会　８日７名　２年９か月振りの対面句会で開催し30句 兼題は「柚子」。
以下の部会は新型コロナ感染対策、雨などで休会/中止
○子どもと遊ぶ会○探訪部会○カラオケ部会○企業研究部会○おひる探Ｑ会

()内はゲスト人数で内数

自　由　席
東京へ転居してからの活動

米今 秀明

60歳で定年退職し、その翌年にくげぬま探求クラブに入会した。

クラブではおもちゃの病院、子どもと遊ぶ会、鵠沼松が岡公園愛護会、健康部会、探訪部会、企業研究部会、デジタル情報部会等に参加し、先輩の方々から社会人間としての生き方、くげぬま探求クラブのすばらしさを教えていただいた。

入会後2年もたたないうちに、親のことを考え東京へ引っ越す事としたが、くげぬま探求クラブから離れることが心残りで、しばらくは続けさせてもらい東京から通う事とした。

東京へ移ってから、探求クラブのような素晴らしい組織はないかといろいろ探したがなかなか見つからない。20以上の活動部会を持っているような組織はなく、単独の活動組織しか見つからなかった。

そこで単独の活動ではあるが東京でいろいろやっていることを列記してみると

【マンション内のグループ】引っ越し先のマンションは約300戸の規模であり、そこで結成されていた「ウォーキング会」と「やまびこ会（年配者の孤独を防ぐため毎月1回集まり情報交換をする会）」に入った。コロナ禍で一時休んでいたが今は毎月1回の活動をしている。

【おもちゃの病院】品川区の消費者センターでおもちゃの病院をやっていると聞き、ドクターとして参加させてもらった。毎週土曜日に開院しドクター8名、来院者10名強くらいで運営している。（受付は区の職員が担当）

【シルバー大学】品川区が主催のシルバー大学と言うものがあったので参加した。

3年の講座で1年目は20回のシルバーとしての基礎知識を学ぶ「ふれあいコース」、2，3年目は各回 4～5 テーマから興味のあるテーマを半年単位で選ぶ「いきいきコース」で学んだ。卒業後は OB 会があり、毎月開催される講演会か見学会に参加している。

【楽学散歩】シルバー大学のテーマの中で「自然観察会」というコースに参加したが、このテーマをもっと続けたいと有志で結成した会が今も続いており「楽学散歩」と称し、公園等の街づくりが専門の設計者を講師として迎え案内してもらっている。

【支え愛活動の支援員】社会福祉協議会活動の一環として「支え愛ほっとステーション」という組織の地域支援員として、要望のあることは何でもやっている（外出の付き添い、重い物の運搬、掃除、家具の組立て、植木の剪定、簡単な補修等。色々あるものだ）。

このように色々なことに首を突っ込んでいるが単独テーマのグループであり、探求クラブのような深みがあり幅広い人達は少ないと思う。改めて 20 もの部会がある探求クラブならではの魅力を感じている。

品川からは距離があるので活動には制限があるが、これからも鵠沼へ通いお付き合い願えればと思っている。

クラブ短信

1. 忘年会

コロナ禍で見送られていた恒例のクラブ忘年会が、昨年末3年ぶりに藤が谷市民の家で開催された。飲食をともにしながら平素接触の少ない会員同士の意見交換もでき、和気あいあいのひと時となった。楽器演奏や2次会などの自粛はあったものの探求クラブ本来の重要な行事を行うことができた。今年は花見会、納涼会、公民館まつりの打ち上げなどの開催が期待される。

編集後記　コロナの流行は第8波に迫り、高齢者のワクチン接種は5回目を迎えた。このような環境の下で昨年は第 46 回公民館まつりが開催され、私たちも久しぶりに活動に参加し、貢献できたと思う。本号では世話人代表が巻頭に「新年を迎えて」を投稿し当クラブ創立30周年にも言及。公民館まつりについては各イベント関係者が開催結果を紹介。今年の年男は甘利さんほか3名であるが、今回は塙、山田、萩原の3氏が登場。地域活動部会紹介には災害研究部会が企業研究部会と合同開催した「本所防災館」体験見学記を紹介。親睦研鑽部会紹介には久しぶりに再開したなつかしの名盤愛好会が登場。先般二つの部会長が交代したので趣旨・抱負をご披露。自由席には米今さんが登場し、東京に転居後取り組んでいる様々な活動について紹介。（塩爺）

会報　くぐひ　第112号
2023年1月1日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 大木 信一
編集長 塩川 昌男